

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-24	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	坂牧	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	【主な所轄事業】 荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存 常設展示及び特別展示事業（企画展等） 資料に係る専門的な調査研究 文化財の保存及び活用 郷土学習のレファレンス（資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等） 教育、学術及び文化の振興に関する事業（各種講座） 伝統技術の保護と育成（荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等）						
経過	【所在地】 荒川区南千住6-63-1（南千住図書館と併設）【土地面積】 2,723.96㎡ 【建物面積】 1,499.89㎡【延床面積】 5,720.69㎡（文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡） 【構造】 鉄筋コンクリート地上4階、地下1階 【施設内容】 地下1階：収蔵庫（261㎡）、視聴覚室（84㎡・45人）、研修室（53㎡・30人）、工作室（59㎡） 1階：常設展示室（506㎡）、企画展示室（148㎡）、郷土学習室（84㎡） 2階：調査研究室（40㎡） 4階：事務室（282㎡、図書館共用部分含む）【工期】 建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日 【休館日】 月曜日（月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館）、館内整理日、年末年始（12月29日～1月4日）【入館料】 100円（区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料） 【開設】 平成10年5月1日（開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託） 建物建設3,113,381,000円 展示製作委託319,300,000円 外構（駐車場・駐輪場等）167,023,500円						
必要性	荒川の歴史や文化に関心を持ち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。また近年は観光スポットとしても注目され、平成26年度開催の奥の細道サミットの関連事業の拠点の一つにもなっている。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		56,650	53,476	50,538	49,488	52,712	57,659
決算額（26年度は見込み）		54,452	50,197	48,301	47,001	51,892	56,489	52,828
人件費等		6,776	8,144	6,104	7,757	6,444	1,953	
減価償却費				2,034	2,177	2,517	1,014	
【事務分担量】（%）		80	100	70	70	78	30	
合計（+ +）		61,228	58,341	56,439	56,935	60,853	59,456	52,828
特定財源	国							
	都							
	その他		736	783	670	741	642	
一般財源		60,492	57,558	55,769	56,194	60,211	59,456	52,828
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	文化館利用者数（人）	19,223	23,863	19,053	23,702	18,709	19,164	24,000
	展示室観覧者数（人）	15,442	19,715	14,754	18,589	14,446	14,641	20,000

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	非常勤職員報酬	14,875	委託料	建物維持管理業務委託等	21,895	委託料	建物維持管理業務委託等	21,141
共済費	非常勤社会保険料	2,002	報酬	学芸員報酬	14,515	報酬	学芸員報酬	15,779
報償費	保守謝礼（太刀）	0	需用費	光熱水費、消耗品購入費等	10,402	需用費	光熱水費、消耗品購入費等	12,152
旅費	資料調査旅費	69	工事請負費	電気錠設備改修工事	5,345	共済費	学芸員社会保険料	2,038
光熱水費	電気・水道料金	8,256	共済費	学芸員社会保険料	2,048	役務費	電話料金、郵便切手等	1,147
一般需用費	家屋修繕費・展示室電球	3,292	役務費	電話料金、郵便切手等	1,307	備品購入費	備品購入費	290
	印刷製本・消耗品等	935	旅費	郷土資料調査旅費等	684	賃借料	複写機、軽印刷機賃借料等	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化館利用者数(人)	23,702	18,709	19,164	24,000	26,000	展示室観覧者 + 郷土学習室利用者
	文化館展示室観覧者数(人)	18,589	14,446	14,641	20,000	22,000	展示室観覧者数

（問題点・課題 分析）	開設後16年以上が経過し、展示室及び収蔵庫等の空調、自動ドアの不具合等、経年劣化により修繕が必要な箇所が増加している。 平成26年度の奥の細道サミット関連事業において、関係自治体の協力を得て企画展示の充実を図り、来館者の増加につなげる。荒川ふるさと文化館の来館者の増加を図るための、HPのコンテンツの充実等、PR方法の改善を検討する。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実 状況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	経年劣化の進行等、修繕が必要な箇所を把握し、計画的な修繕を行っていく。	26年度の対応を踏まえ、継続して計画的に修繕していく。
	利用者が必要とする情報をタイムリーに発信できるようHPのコンテンツの充実を図る。また、その他のメディアへの情報発信を積極的に行う。	26年度の対応を踏まえ、継続してPR方法の改善を行っていく。
	複合施設開館に伴う中央図書館機能移転に備えて、共有部分の利用・運営方法について南千住図書館と検討する。	26年度に検討した結果を踏まえ、具体的化のための計画を策定する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	郷土の歴史や文化に親しみ、荒川の文化を伝承する施設を運営するために必要である。

議 会 質 問 状 況 （ 要 旨 ）	
--	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-25	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	鍛冶	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	10 年度	根拠法令等	荒川区立荒川ふるさと文化館条例			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区民が、荒川ふるさと文化館の企画展を観覧したり、講座等の事業に参加したりすることにより、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。						
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者						
内容	<p>荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のために下記の事業を行う。</p> <p>企画展：年2回程度開催。会期1～2か月間。企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。入館料は、常設展示と合わせて100円。平成25年度は、企画展「東京『氷』物語」「番付から見るあらかわ」を実施。</p> <p>館蔵資料展：年1～2回開催。会期1～2か月間。館が所蔵している文化財、新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示を行う。</p> <p>子ども向け講座：夏休み期間に「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」等の体験学習を実施。</p> <p>一般向け講座：「古文書講座（初級・中級）」「金石講座」「地域史講座」「史跡めぐり」等、講師は荒川ふるさと文化館学芸員。「文化財講座」、テーマを設定し様々な角度から荒川を探る講座、外部講師を招き実施する。</p> <p>庁舎エントランス展示：平成20年度より荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年4回展示替え。</p>						
経過	<p>1 平成23年度事業：企画展2回「都電荒川線に乗って」「絵解き あらかわの浮世絵」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・文化財講座・古文書講座・金石講座・地域史講座・史跡めぐり</p> <p>2 平成24年度事業：企画展2回「再発見！あらかわの匠の仕事 - 伝統工芸品展 - 」「山車人形が街をゆく」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・文化財講座・古文書講座・地域史講座・史跡めぐり</p> <p>3 平成25年度事業：企画展2回「東京『氷』物語」「番付から見るあらかわ」・パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅 - 芭蕉・梅翁・一茶 - 」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・古文書講座・史跡めぐり・文化財講座</p>						
必要性	収集した資料・情報を活用し、区民に郷土の歴史・文化に親しみ理解を深める機会を提供しており、また区の歴史・文化を資源として活用し区のPRに役立てており、必要性は高い。講座はコミュニケーション連携講座にも位置づけられ、区民自らが郷土の歴史を探求する手法を学ぶ場となっている						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	予算額		7,405	7,094	8,438	7,408	7,021	6,885	7,301
決算額（26年度は見込み）		6,047	5,227	6,915	5,795	5,616	5,766	7,301	
人件費等		9,892	8,756	13,991	15,491	15,067	12,693		
減価償却費				7,844	9,486	9,681	9,126		
【事務分担量】（%）		220	195	270	305	300	270		
合計（+ +）		15,939	13,983	28,750	30,772	30,364	27,585	7,301	
特定財源の推移	国								
	都								
	その他		621	743	452	789	503	978	447
	一般財源		15,318	13,240	28,298	29,983	29,861	26,607	6,854
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	企画展	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	
	館蔵資料展	2回開催	2回開催	2回開催	1回開催	1回開催	1回開催	1回開催	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	企画展講演会謝礼等	394	委託料	展示制作等委託料	2,422	需用費	企画展図録ポスター等	2,229
一般需用費	企画展図録ポスター等	2,180	需用費	企画展図録ポスター等	2,240	役務費	企画展美術梱包輸送	2,069
役務費	企画展美術梱包輸送	397	役務費	企画展美術梱包輸送	721	委託料	展示制作等委託料	1,994
委託料	展示制作等委託料	2,181	報償費	企画展講演会謝礼等	363	旅費	展示資料調査	463
使用料・賃借料	展示品賃借・使用料	147	賃借料	展示品賃借・使用料	20	報償費	企画展講演会謝礼等	396
						賃借料	展示品賃借・使用料	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	企画展入館者数(人)	7,842	5,027	4,927	5,500	6,000	企画展（年2回）の入館者数
	各種事業延参加者数(人)	600	530	418	700	800	講座・講演会など延参加者数

（問題点・課題分析）	企画展については、テーマや内容により入場者数が大きく変動するため、区民のニーズを踏まえたテーマの設定や、質の高い展示を行い、リピーターを増やしていく必要がある。 各種事業参加者が減少傾向にあるため、原因の把握と増加策の検討が必要である。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
今後の企画展のテーマの検討にあたり、区民にとって魅力ある展示となるよう、来館者アンケート結果等を反映するとともに、より質の高い展示を行う。	26年度の対応を踏まえて、継続して展示の改善を図っていく。
事業参加者アンケート等を分析し、参加者減の原因を把握するとともに、PR方法等の見直しを行う。	26年度の対応を踏まえて、参加者の増加のための対応策を実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	郷土の歴史や、文化に親しむ講座・展示等を提供する事業として、必要である。

議会議事録（要旨）	荒川区にゆかりのある小松崎茂に関する展示について
-----------	--------------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-26	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	井口
				内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--						
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区内の小学生が、「俳句」という日本伝統の文化を学び、国語能力向上につなげるようにする。また、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、俳句の事業を通じて、住民同士の交流を深めることを目指す。						
対象者等	区内の小学生						
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 夏休み子ども博物館俳句教室（夏休み 荒川ふるさと文化館） 2 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月 大垣市） 3 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月 町屋文化センター） 4 大垣市「全国東西俳句相撲」（11月 大垣市） 前年度子ども俳句相撲大会上位者を派遣（小学生2人×2組）。 5 荒川区子ども俳句相撲大会・予選（1月 区内） 6 荒川区子ども俳句相撲大会千秋楽【本選】（3月 南千住） 予選通過選手及び大垣市からの招待選手によるトーナメント。 7 荒川区俳句連盟による俳句指導（通年 区内小学校） 生涯学習課が連盟と調整し希望する学校に講師を派遣 8 著名な俳人による 指導者向け講習会 						
経過	<p>平成19年度：第1回奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」を、荒川ふるさと文化館企画展「千住大橋鉄橋化80周年」の関連事業として実施。以降年1回3月に実施</p> <p>平成22年度は東日本大震災の影響で大会を中止、23年度は事業中止</p> <p>○平成25年度第1回全国東西俳句相撲（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、横綱（優勝）・関脇（殊勲賞）を受賞</p> <p>○平成25年度奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」 日時：平成26年3月8日（土）会場：素盞雄神社 大垣市から小学生3組6名を招待。</p>						
必要性	子どもたちが俳句文化に触れるとともに、南千住が奥の細道矢立初めの地であることを学び、郷土愛を育む事業として必要性が高い。また、俳句を通じて奥の細道の結びの地である大垣市との交流を深めることができる。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	1,213	1,295	1,227	1,171	684	835	854	
決算額（26年度は見込み）	999	916	371	0	476	649	854	
人件費等	3,696	4,683	4,761	0	2,492	4,665		
減価償却費			2,179	0	1,646	3,549		
【事務分担量】（%）	75	75	75	0	51	105		
合計（+ +）	4,695	5,599	7,311	0	4,614	8,863	854	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,695	5,599	7,311	0	4,614	8,863	854	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予選参加チーム数	56組	59組	90組	-	227組	245組	280組	
（予選参加者数）	(112名)	(118名)	(180名)	-	(254名)	(490名)	(560名)	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	大会選者謝礼	70	委託料	会場設営委託	375	需用費	消耗品費、印刷製本費等	355
旅費	大会・教室引率派遣旅費	71	報償費	大会選者謝礼	72	委託料	会場設営委託	206
一般需用費	印刷製本（ポスター等）	68	旅費	大会・教室引率派遣旅費	71	報償費	大会選者謝礼	107
役務費	賞状筆耕料	19	需用費	消耗品費等	70	旅費	大会・教室引率派遣旅費	89
委託料	会場設営委託	200	負担金補助等	大会派遣参加費	49	負担金補助等	大会派遣参加費	70
使用料	会場使用料	0	役務費	賞状筆耕料	12	役務費	賞状筆耕料	27
負担金・交付金	大会派遣参加費	49						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	子ども俳句相撲大会予選参加者数 (組)	-	227	245	280	300	2人一組で応募する

（問題点・課題分析）	俳句という伝統文化を学ぶことができ、また、国語能力の向上につながる。小学校全校が参加する事業として実施していくことが望ましい。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
教育委員会と連携して大会の周知を図り、全小学校の参加及び保護者の参観を促す。	26年度の対応を踏まえ、参加校の増加を図る。
文化交流推進課、観光振興課と連携を図る。	26年度の取り組みを継続する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	推進	俳句という伝統文化を通じて、子どもたちの国語能力の向上を図るとともに、奥の細道旅立ちの地を区内外に発信する。

議会議案（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-27	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化財保護奨励費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	鍛冶	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-01	文化財保護審議会					
	01-03-02	文化財保護奨励					
	01-03-04	映像記録保存					
事務事業の種類	新規事業	（26年度	25年度）	建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	47	年度	根拠		
終期設定	有	無		年度	法令等	荒川区文化財保護条例	文化財保護法
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分		計画	非計画
行政評価事業体系	分野		文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区民に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資するとともに、郷土文化の振興と発展に貢献する。						
対象者等	区民一般、文化財所有者・保持者・団体、文化財保護審議会委員、文化財保護推進員、土地・建築関係業者						
内容	<p>文化財保護審議会 教育委員会の諮問を受け答申する。平成25年度区登録(4件)・区指定(2件)</p> <p>文化財保護推進員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業等の協力</p> <p>史跡説明板 設置：年1基 修理：臨時(予算の範囲内) (平成26年3月末現在 131基)</p> <p>年中行事・民俗芸能映像記録保存 平成20年度刷毛職人関根起吉氏の生活誌(編集作品) 平成21年～24年度 お諏方さまのまつり 25年度は撮影対象者体調不良のため休止</p> <p>埋蔵文化財の調査「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事等の届出に関する事務処理(都へ進達他)、確認調査立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う</p> <p>文化財保護奨励金等の交付 文化財の保護奨励等のため、区登録・指定文化財の所有者、保持者及び団体に予算の範囲内で奨励金を交付。また区指定文化財の修理に対して補助金を予算の範囲内で交付。</p>						
経過	<p>・昭和47年度：史跡説明板設置開始 ・昭和57年度：文化財保護条例制定 ・昭和57年度：文化財保護審議会設置 ・昭和58年度：文化財保護推進員設置 ・昭和62年度：日暮里延命院貝塚A地点発掘 ・平成10年度：荒川ふるさと文化館開館 ・平成17年度：町屋四丁目実揚遺跡A発掘調査 ・平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 ・平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 ・平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀が日本紙通商株式会社より区に寄贈 ・平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀構造補強工事 ・平成21年度：橋本佐内墓旧套堂復元工事 ・平成22年度：旧千住製絨所煉瓦環境整備工事・説明板設置 ・平成23年度：小塚原首切地蔵復元工事(第1・2期) ・平成24年度：小塚原首切地蔵復元工事(第2期)、養福寺二天像修復工事(第1期) ・平成25年度：養福寺二天像修復工事(第2期)</p>						
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を保護し、区の伝統・文化を次代に伝えるため、また区の文化資源として活用するため、必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 文化財保護審議会(文化財登録・指定の場合) 教育委員会事務局内部調査 文化財保護審議会に諮問 審議・部会調査 答申 教育委員会決定 告示						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		13,089	13,415	24,095	11,465	14,416	11,670	11,874
決算額(26年度は見込み)		11,862	9,965	19,226	7,378	11,767	9,034	11,874	
人件費等		8,141	10,142	9,715	13,087	10,278	8,335		
減価償却費				6,101	8,708	7,680	6,253		
【事務分担量】(%)		210	240	210	280	238	185		
合計(+ +)		20,003	20,107	35,042	29,173	29,725	23,622	11,874	
特定財源の推移	国		2,000	1,050	1,600	1,250	2,000	2,000	2,000
	都		1,000	1,659	9,093	625	1,000	1,000	1,000
	その他		78	46	47	49	71	49	37
	一般財源		16,925	17,352	24,302	27,249	26,654	20,573	8,837
実績の推移	事項名		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	文化財保護推進員		6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催
	文化財保護審議会・部会		8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催
	指定・登録文化財件数		9件	6件	6件	6件	4件	6件	4件
	埋蔵文化財調査支援委託		10(1)件	14件	9件	7件	8件	10件	10件

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	6,229	負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	3,733	委託料	埋文調査・説明板設置等	4,641
委託料	埋文調査・説明板設置等	3,109	委託料	埋文調査・説明板設置等	2,909	負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	3,899
報酬	審議会委員・推進員報酬	1,786	報酬	審議会委員・推進員報酬	2,050	報酬	審議会委員・推進員報酬	2,370
需用費	消耗品・物品修繕等	356	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	需用費	消耗品・物品修繕等	632
使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	需用費	消耗品・物品修繕等	146	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	172
役務費	車両・登録書筆耕	76	旅費	審議会委員旅費等	24	役務費	車両・登録書筆耕	83
報償費等	報償費・旅費	45	役務費	文化財登録書筆耕	6	旅費	旅費	51

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化財登録件数（総数）	4(255)	2(257)	4(258)	2(260)	3(262)	総数 = 前年度総数+当該年度登録数-当該年度解除数
	文化財指定件数（総数）	2(54)	2(56)	2(57)	2(59)	2(61)	総数 = 前年度総数+当該年度指定数-当該年度解除数

（問題点・課題分析）	登録文化財の候補は、寺社調査・区史編纂調査・石造物調査等で収集した情報から選定しており、建造物や近代遺産等の登録件数は少ないため、調査計画を作る必要がある。 伝統工芸の保持者について把握するための工夫を行い、登録して保存する必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
これまでに収集してきた情報のほか、東京都の建造物の調査等を活用し、総合的に区内建造物を把握し、適切な保存方法を検討する。	検討に基づき計画的に文化財として登録する。
区報や公式ホームページで呼びかけ伝統工芸技術の保持者の所在を把握するとともに調査を行い、登録数を増加させる。	平成26年度に引き続き実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるとともに、区の文化資源として活用するため、必要性が高い。

議会（要旨）	H22決特 史跡説明板への浮世絵写真の掲載について H24決特 富士見坂の景観の文化財としての価値について
--------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-28	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化財交流事業		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	鍛冶	内線	1782	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	17年度	根拠法令等	荒川区文化財保護条例	文化財保護法		
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	荒川区や交流都市の文化財を通して、区民と交流都市との文化交流を深めることができるようにする。						
対象者等	区民一般、区外からの来訪者						
内容	<p>荒川ふるさと文化館エントランス等において、荒川区と交流都市の文化財等をパネルを中心として紹介する。区内の史跡・文化財の中には、他の自治体に関係する文化財が数多くある。橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷跡は、福井・大垣・黒羽・対馬・秋田などと荒川区の歴史の関連を伝えるものである。これら文化財を通じてゆかりの自治体を紹介する。</p> <p>25年度は奥の細道千住あらかわサミットのプレイベントに関連し、特に奥の細道のルート上の交流都市について、パネル・観光パンフレットにより広く紹介した。サミット開催年度である26年度には、さらにパンフレット等の情報量を増やし、広く周知する。</p>						
経過	<p>平成17年12月に橋本佐内墓套堂の寄贈を受けた。平成19年度：文化館敷地内への移設を決定し、復元工事設計を実施。「橋本左内墓旧套堂」を文化財登録。平成20年度：套堂復元工事完成、記念セミナーの実施（21年3月26日）。平成21年度：福井県から橋本左内像の贈呈及び旧套堂内への橋本左内ブロンズ像設置セミナーの実施（22年3月23日）。平成22年度：三河島の山車人形と交流都市である潮来市の山車人形のパネル展を実施（22年3月19日～6月5日）。平成23年度：隅田川から見える富士山と筑波山を詠み込んだ区指定有形文化財亀田鵬斎の詩碑や諏訪台からの筑波山眺望の変遷、校歌に筑波山を含む小中学校、つくば市の概要をパネルで紹介（24年3月31日～5月27日）。平成24年度：文化財交流事業を拡大し、企画展として他自治体等の山車人形を展示紹介した。平成25年度：奥の細道サミットプレイベントとしてのパネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅 - 芭蕉・梅翁・一茶 - 」開催にあわせ、区内及び交流都市の芭蕉等の史跡を紹介。通年、奥の細道のルート上の交流都市のパンフレットも配置し、来館者にサミット開催をPRした。</p>						
必要性	橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷等は、文化財的な価値及び観光資源としての価値が高く、これらを題材に区民・観光客に荒川区の文化財をPRし、また交流都市について周知する必要性は高い。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		予算額	30,747	600	456	456	0	0
決算額（26年度は見込み）	30,747	390	335	0	0	0	0	
人件費等	3,338	2,689	2,738	1,543	1,209	705		
減価償却費			1,307	778	581	507		
【事務分担量】（％）	75	40	45	25	18	15		
合計（ + + ）	34,085	3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	0	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	34,085	3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	0	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	観覧者数	-	-	3,187	2,928	0	2,797	5,000

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	パネル展パンフレット	0	需用費		0	需用費		0
役務費								
委託料	展示設営等委託	0	委託料		0	委託料		0
使用料及び賃借料								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	パネル展観覧者数（人）	2,928	0	2,797	5,000	6,000	展示中の展示室観覧者 + 郷土学習室利用者数

（問題点・課題分析）	26年度は奥の細道千住あらかわサミットが開催されるため、都市間交流と荒川区のPRを行いつつ、サミット開催について周知し、サミットへの関心をさらに高める必要がある。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 定期的な事業として実施している区は無い。

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
エントランス展示及び企画展示室でのパネル展により、区内外の松尾芭蕉や奥の細道にちなんだ文化財とサミット参加自治体の町の魅力について紹介しながら、3月のサミット開催について周知する。	平成26年度奥の細道千住あらかわサミットを契機に、俳句文化の伝承も視野に入れたテーマを検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	奥の細道サミットに関連する句碑等、荒川区と交流都市の史跡・文化財をパネルで紹介し、交流都市との文化交流を深める。

況議 （要 質 問 状）	H19 予特 橋本佐内套堂の早期復元と回向院に縁のある歴史上の人物などの顕彰について
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-29	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	江戸伝統技術		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	井口	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-03	江戸伝統技術					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	55年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知する。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深めるとともに、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術及び保持者 伝統技術保持者の継承者 伝統技術展来場者 職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映画視聴者 文化館展示観覧者 学校職人教室実施校児童						
内容	<p>「あらかわの伝統技術展」区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コ-ナ-等を行う（会場：荒川総合スポ-ツセンター）。</p> <p>「荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業」荒川区登録無形文化財保持者、指定無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象にその技術継承者育成のための手当てを支給する。</p> <p>「学校職人教室」区内の伝統工芸技術保持者が各小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験などを行う。</p> <p>「伝統工芸技術記録映画制作」区指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映画を制作。</p> <p>「伝統工芸品購入」区指定無形文化財保持者の作品を購入。原則として記録映画で制作過程を撮影した作品等を購入</p> <p>「職人体験道場」夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。</p>						
経過	<p>「あらかわの伝統技術展」昭和55年度より開催。平成26年度第35回（7月4日～6日）</p> <p>「荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業」平成21年度より実施。（現在対象者9人）</p> <p>「学校職人教室」昭和59年度より開催。平成19年度より全校で実施。</p> <p>「伝統工芸技術記録映画」制作。昭和60年より実施。25年度：齊藤正一郎氏（刷毛）/49本</p> <p>「伝統工芸品購入」平成元年より購入。25年度購入品：刷毛 累計/55点</p> <p>「職人体験道場」平成16年度試行、17年度より予算化し本格実施。</p>						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸技術の素晴らしさを区民に紹介し、理解を深める貴重な機会となっている。 ・区の伝統工芸技術の保存・継承のために欠かせない事業である。 ・伝統工芸記録映画は技術の記録保存だけでなく、区民が伝統工芸への理解を深めるのに役立っている。 						
実施方法	<p>（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会・荒川史談会の共催。技術展会場設営及び記録映画制作は委託</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	16,052	31,021	36,954	41,998	33,686	29,589	33,145	
決算額（26年度は見込み）	15,759	26,528	29,436	32,170	31,185	28,881	33,145	
人件費等	8,377	11,649	11,354	16,109	14,403	13,958		
減価償却費			5,955	8,553	8,229	9,971		
【事務分担量】（%）	195	255	205	220	255	295		
合計（+ +）	24,136	38,177	46,745	56,832	53,817	52,810	33,145	
特定財源			2,791	0	0			
国								
都		1,036	1,155	0	0			
その他	2	141	4	6	10			
一般財源	24,134	37,000	42,795	56,826	53,807	52,810	33,145	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	「伝統技術展」入場者数	17,000人	15,000人	13,500人	14000人	15,000人	13,200人	14,700人
	「継承者育成事業」参加者数			9	11	11	9	11
	「学校職人教室」参加校数	23校	23校	24校	24校	24校	24校	24校
	伝統工芸記録映画（）内累計	1本(44)	1本(45)	1本(46)	1本(47)	1本(48)	1本(49)	1本(50)

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,453	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,680	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	15,000
食糧費	伝統技術展当日賄	261	委託料	技術展会場設営委託等	9,539	委託料	技術展会場設営委託等	10,356
一般需用費	技術展ポスター制作等	636	報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,563	報償費	伝統技術展謝礼	2,600
役務費	技術展ポスター掲示等	1,682	役務費	技術展ポスター掲示等	2,112	役務費	技術展ポスター掲示等	1,862
委託料	技術展会場設営委託等	9,939	使用料等	技術展会場使用料	1,020	備品購入費	伝統工芸品購入	1,300
使用料	技術展会場使用料	1,318	需用費	技術展ポスター制作等	927	使用料等	技術展会場使用料	1,074
備品購入	伝統工芸品購入	436	備品購入費	伝統工芸品購入	40	需用費	技術展ポスター制作等	953

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	伝統技術展入場者数	14000	15000	13200	14700	17000	

（問題点・課題分析）	P Rの強化や新たな関連事業の実施により、入場者数を増加させる必要がある。
他区の実況	（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） 伝統技術展は、他に文京区・北区・葛飾区・江東区・墨田区・練馬区で実施。 荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業は、教育委員会で実施している自治体は全国で荒川区のみ。 学校職人教室は全国で荒川区のみ。

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
・テレビ、新聞、ラジオ、タウン誌等に掲載を依頼し、区内外へのP Rを強化する。 ・伝統工芸技術保存会と連携し、伝統工芸技術の魅力を広める新たな関連事業を開拓する。	新規に開拓した事業を実施し、充実させた内容を周知する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区の伝統工芸技術についての関心を高め、保存への理解を促すため、必要性が高い。

議（要旨）	況	問	状
-------	---	---	---